

# NEWS

Vol.21

発行 財団法人骨髓移植推進財団  
 発行責任者 高久史磨（理事長）  
 編集責任者 埴岡健一（事務局長）  
 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-19 廣瀬第2ビル7F  
 Tel 03-5280-8111 Fax 03-5280-0101  
 ホームページ <http://www.jmdp.or.jp/>

ドナー登録者30万人で  
 命のチャンスが生まれます

特集

あなたにできる、  
 もうひとつのこと



登録会開催当日に豊中駅前前で繰り  
 広げられたキャンペーンで、ドナ  
 ー登録を呼びかけるお母さんたち。  
 中央は道野さん。  
 （写真提供：大阪日日新聞社）

ボクに「命の種」をください！

中井耀くんと  
 耀くんのお母さん・麻里さん

有効な治療の道はただひとつ。骨髓移植...

中井耀くん（大阪府豊中市在住・4歳）は一  
 昨年の2月、先天性の代謝異常「ムコ多糖症」  
 と診断された。細胞膜を形成する成分のひとつ  
 のムコ多糖が代謝できないため、次第に内臓や  
 骨、脳に老廃物がたまり、命を落とす可能性も  
 ある進行性の難病だ。根本的な治療法は今のと  
 ころ見つかっておらず、唯一、骨髓移植が有効  
 とされている。

肉親、親戚の中に適合者はなく、麻里さんの  
 職場の同僚たちは耀くんのために検査をしてく  
 れたが、適合者は見つからなかった。骨髓バン  
 クで3人の候補が見つかったが、移植には至ら  
 なかった。思いあまった麻里さんは耀くんが通  
 っている保育所の懇談会でクラスのお母さんた  
 ちに話をした。後日、麻里さんは心を動かされ  
 た道野さんから一通の手紙を受け取った。手紙

にはチャンスを読んだ感想と、登録しようと思  
 っていることが書かれていた。幼い3人の子供  
 がいて、ドナーになるとすれば入院がネックで  
 はあるが、「赤ちゃんは増えないけれど、ひと  
 つの命が救える。4人目の出産と思えばいい。  
 耀ちゃんに出会えたことはチャンスだと思う」と。

今年の3月、道野さんが発起人になって阪急  
 豊中駅前の男女共同参画センターで休日ドナ  
 ー登録会が開催されたが、まだ適合ドナーは見つ  
 かっていない。

「ママの大好きなコズスイバンク」などと言っ  
 て麻里さんを笑わす無邪気な耀くんだが、すで  
 に両腕がよく上がらない症状が出はじめてい  
 る。著しく骨の変形が始まる5、6歳までになん  
 とかが移植ができるよう、一日も早くドナーが  
 見つかることを麻里さんは祈るような気持ちで  
 待っている。

## CONTENTS

ボクに命の種をください	1
あなたにできる、もうひとつのこと	2
池田あゆみさん / 大橋一三さん / 吉田孝行さん	
梅田正造さん / 三上義博さん / 田代浩嗣さん	
日本骨髓バンクの現状	5
ご支援ありがとうございます	6
岡山美容師組合 / ヒューレット・パカード社	
Gi!nz / 日本経団連 / 公共広告機構、ほか	
募金のお願い	8

目標・ドナー登録者数30万人のために

あなたにできる、もうひとつのこと



福井マラソン (2002年10月)

骨髄バンク事業がスタートしてから11年が経過。ドナー登録者数は16万人を超えましたが、ここにきて登録者数は伸び悩んでいます。今号の特集では、目標30万人に一日も早く到達するため、様々な形でバンクの普及活動をしてくださっている方々を紹介しします。これから、普及のための一歩を踏み出そうと思っていてくださる皆さまの、何かのきっかけになれば幸いです。

何かをすれば見つかる次の1歩  
ドナーがつくるドナーの輪

「経験から学んだことをたくさんの人に伝えたい」 骨髄提供者となった体験をきっかけに骨髄バンクのボランティア活動に参加する人は少なくない。池田あゆみさん(福井県在住)は、今年も市民参加型の「福井マラソン」に出場し、骨髄バンクPRのタスキをかけて5キロコースを完走した。

骨髄バンクが設立される以前、民間バンクで骨髄提供を体験した池田さんが、毎年10月に開催される「福井マラソン」に参加を決めたのは故郷の福井県にUターンした翌年から。今年で3回目を数える。

「元気だから提供できた。元気だからこそ走ることもできる」。命を待っている患者さんを心に思い描きながら走っていると沿道から「骨髄バンク、ガンバレー」と、たくさんの声援があがる。池田さんも、よろしくー、と手を振ったりする。

4万人を超えるランナーの中から、今年には約40人の人が池田さんの呼びかけに応じて「チーム・チャンス」としてタスキをかけて走ってくれた。メンバーは小児科の先生、コメディネーター、全国の大会を巡る猛者、高校生…と様々だ。  
「多くの人に骨髄バンクを知ってもらえる機会になれば」と池田さんは願っている。



元気になりました!

2002年移植  
南出 弦さん(京都市)

もし移植していなかったら...

99年に慢性骨髄性白血病と診断された直後、兄が検査を受けましたが、適合しませんでした。「弟を助けてやれない」と兄が罪悪感にずいぶん悩んだということの後から知りました。

患者登録すると間もなく5人のドナー候補者がみつきり、次の検査へは3人の方に進んでいただけました。適合者が見つかり、移植を待つ間も不安との戦いでした。

「病と向き合って見えてくる深い人生がある」とは、同室だった患者さんのご家族の言葉です。家族の絆や、骨髄移植に関わる多くの人たちの思いは、病気をして初めてわかった気がします。それに、もし移植していなかったら、今の僕はいなかったかもしれません。ドナーさんには感謝の心も一緒にもらったと思っています。元気になって今年の9月には大学を無事卒業し、来春からの就職も内定しましたが、適合ドナーが見つからずに、不安と戦いながら闘病している同じ病気の方たちを思うと、移植を必要とするすべての人に適合ドナーが見つかる日が、一日も早くやってくることを祈らずにはいられません。



箱根大学駅伝・小田原中継所付近 (2002年1月)

大橋二三さん(東京都在住)は、今年1月、箱根大学駅伝で骨髄バンクのぼりを沿道に立てた。箱根湯本の

に住む友人、平賀太郎さんに相談したところ、小田原中継所の「鈴廣」の社長や箱根宮下の人たちの紹介を得て実現した。99年、骨髄提供した大橋さんが退院の足で平賀さんの絵画・個展に行ったことで、平賀さんはドナー登録している(2000年)。  
来年の大会では大橋さんの呼びかけに、主催する関東大学生陸上競技連盟も全面協力を約束し、参加20校がスタートとゴール地点の他、4カ所の中継所に骨髄バンクののぼりを立ててくれることになった。目下、箱根駅伝キャンペーン実行委員会をつくり準備を重ねている。  
「楽しみながら一緒に活動しませんか」大橋さんはたくさんの方の参加を呼びかけたいと思っている。



マラソンにバンクPRの  
タスキをかけて

駅伝の中継所にノボりをたてる  
地域の催しに参加する  
とにかく誰かに話してみる  
職場でイベントを企画する

さあ、できることから！

吉田孝行さん（福島県在住）は心臓病で入院していた母の看病中に血液疾患の患者さんを目にしたことから献血するようになり、30回目の献血記念にドナー登録をした。

看病のかたわらラジオへしばしば投稿していたことから、ドナー体験（96年）談を番組で話すことになった。ドナー登録会の情報も流したところ「番組を聞きながら車を走らせていたら、ちょうど登録会場近くを通りかかったので登録に来た」というリスナーからの反響があり驚いた。「何かをすれば必ず、新しい何かにつながるんですね」  
気がついてみれば、吉田さんはポ

## あなたの住む街で地域で あなたの職場で

梅田正造さん（千葉県在住）は今  
年9月に三井化学株式会社袖ヶ浦



献血併行ドナー登録会場・福島県原町市（2002年7月）

ランティア活動に参加し、献血併行ドナー登録会などの手伝いをするようになっていたという。

センターで開催した献血併行ドナー登録会で説明員として活動した。セ

ンターでの登録会は2度目。勤務先の同社・市原工場での過去2回の登録会も梅田さんのリードで開催された。1回目（2000年8月）は全国初の企業内登録会となった。

早い時期からボランティア団体に参加し、社内でもできる限りは働きかけてきたので、企業内登録会を計画し始めた頃には、バンクとのつながりは社内では周知のことになっていた状況あつての実現だった。

地域の企業、青年会議所、公共機関での登録会や、市民参加のイベントなど梅田さんが参画した登録会は数え上げたらきりが無い。

「探せば必ず、身近なところに頑張っている人がいるんです」  
これから1歩を踏み出そうと思っ  
ている人へ、梅田さんからのメッセ  
ージだ。



登録会（袖ヶ浦センター）での採血

三上義博さん（北海道在住）の住む札幌での風物詩といえば「雪祭り」だ。骨髄バンクの黎明期にマスコミトキヤラクターとして活躍した「マ

ロー博士」の雪像づくりは7回を数えた。

雪祭り期間中は、配布や勧誘などは一切禁止であるが、雪像の説明（＝骨髄バンクの説明）の看板を雪像前に立てることが出来る。製作中に通りがかりの観光客に尋ねられようものなら、「この時とばかりに説明を取り消したが、そのときは思わず泣いてしまった」と語る。「患者さんに申し訳ない」その思いが、何かをしなければという気持ちを一層強くした。来年の2月も必ず抽選に当たって、雪像づくりをしたいと思っている。



札幌雪祭り（2002年2月）

田代浩嗣さん（愛知県在住）は昨年、ドナー登録をした。田代さんが委員長を務める小島プレス労働組合の40周年記念フェスティバルで、ドナー登録会が開かれたのがきっかけだ。当日は、51名のドナー登録者があつた。

『労使協調して社会貢献を』を理念

# かんがえよう…!

## 伸び悩むドナー登録数

### 一日も早い目標「30万人」達成のために

このバンクニュースは、ドナー登録をされているみなさんにお届けしていますが、現在の登録者は約16万人。目標の30万人のまだ半分程度です。全米骨髓バンクは約400万人の登録者。米国の人口は日本の2倍以上ですから日本の人口で換算すると約200万人となります。日本のドナー登録者はまだ少ない。だからこそ、まだまだ増えるはずですし、ドナーが見つからない患者さんのために、30万人達成を急ぐ必要があります。

現在移植を希望している患者さん1900人のうち、ドナー候補が一人もいない方は1000人程度。いまドナー登録者が30万人であれば、

このうち700人程度にはドナー候補が見つかるかと推定されます。ドナーがいらない患者さんの待つている気持ちを考えて、胸が痛みます。1993年度のドナー登録者数は2万6000人余りでした。2001年度は、2万2000人足らずでむしろペースダウンしています。ドナーが登録してくださるルートがいま大きく変わってきています。もともとは各地の日赤窓口や保健所窓口のみの受付でしたが、最近は臨時設置されるドナー登録会場のルートが半分程度になっていきます。固定窓口「に訪れる方と、登録会場で受け付けされる方が共に増えることが、目標達成には不可欠です(グラ



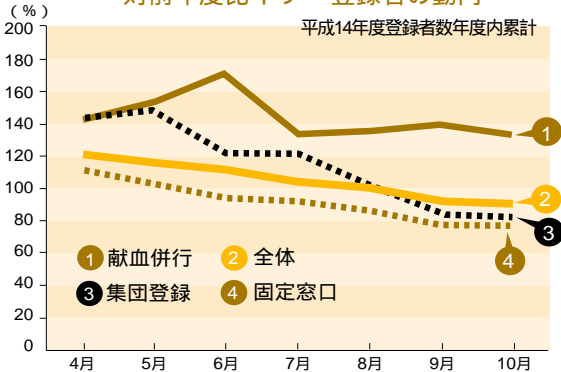
小島プレス工業・ドナー登録会(2002年6月)

に掲げている同社では、社内での献血活動も36年目を迎え、今年からは献血並行ドナー登録会として行われた。今年1月にはドナー休暇制度も導入

され、それからわずか10ヶ月目に、骨髄提供者が現れたという。「組合の人たちはもとより、会社の皆さんの協力があつたからこそです」と田代さんは話した。

「ひとりでも、誰でもできる。身近なところで自然に始められること」「ここに登場の方々がそろって話してくれたことそれは、おそらくどんなことを始めるのにも通じることなのではない。小さくても、とにかく一歩を踏み出してみる。すべてはそこから始まる。」

対前年度比 ドナー登録者の動向



フ参照)。登録会場で登録された方にアンケートをとると、「考えていたが、きっかけがなかった」という方が多く

ドナー登録者のあなたへ!  
誰かに話してみてください  
お友だちに渡してください

切り取って

日本骨髓バンクへのご質問・お問い合わせは

フリーダイヤル  
**0120-445-445**

<http://www.jmdp.or.jp/>

できることから!

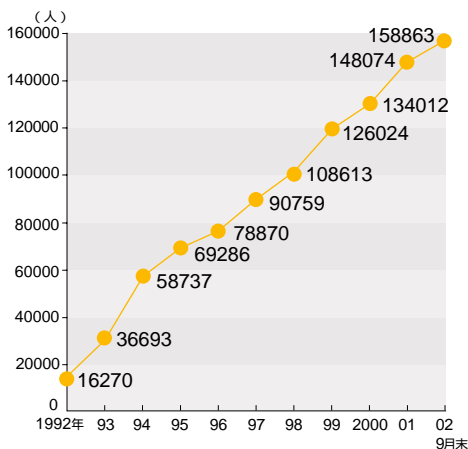
登録して下さった温かいお気持ちを「誰かに伝えたい」とは思うけれど、細かいことを訊ねられたら…」そんな時は、とにかくバンクの問い合わせ先を教えてください。バンクニュースが入っていた封筒の裏面にある、上のものと同じ番号を切り取ってお役立ててください。

みられます。「登録会があるのを知って、この機会にすることにした」というわけです。近くで登録会があるというチラシを見たり、ドナー登録者から骨髓バンクの話が出ることで、こうした潜在的登録者の行動を引き起こすことができるのです。一方で、まだ「骨髓移植は骨を切る」とか、「骨髓」を「脊髄」と勘違いしている方が多いことにも事実です。そういう方々には、とにかくまず、パンフレットの「チャンス」を読んでいただきたい。16万人のすでにドナー登録をされたみなさんが、もしドナーリクルーターとして一人ずつのドナー登録者を紹介くだされば…。夢の30万人がすぐにでも達成されることとなります。あなたも、ご家族、友人に骨髓バンクの話をしてみてください。

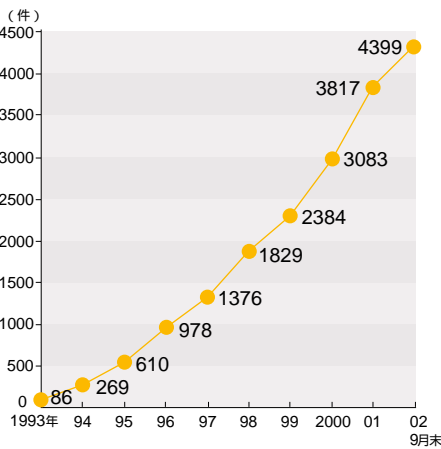
日本骨髄バンクは事業開始から11年が経過し、本年9月末までに骨髄バンクを介した移植例が4399例に達しました。ご提供いただいたドナーの皆さまには、患者さんに生きる希望を与えていただきました。心から感謝申し上げます。  
他の各種統計につきましては、ホームページで公開しています。

<http://www.jmdp.or.jp/data/>

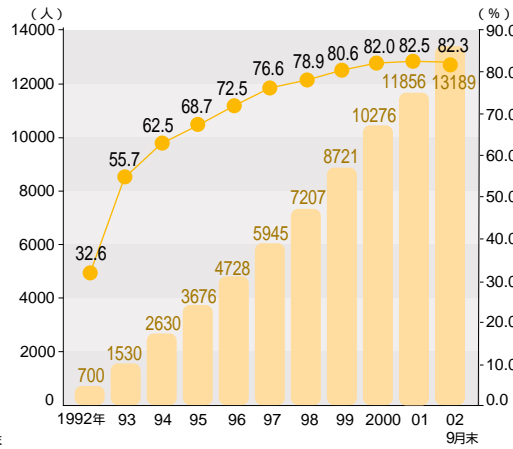
### 骨髄提供希望者(ドナー)登録現在数



### 移植実施推移数



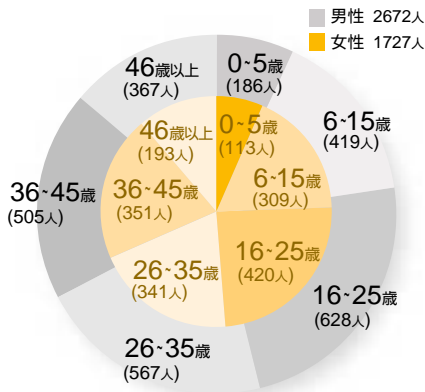
### 患者登録数・適合率推移



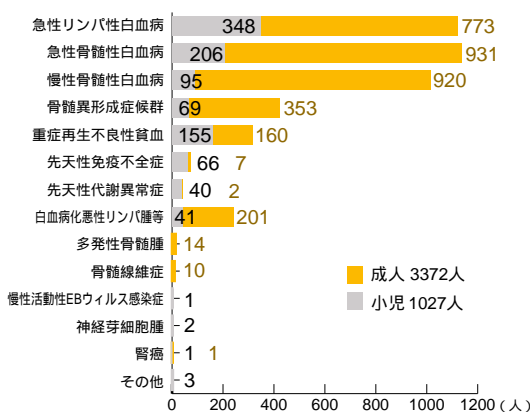
## 非血縁者間骨髄移植の状況

### 移植患者の状況 (4399例)

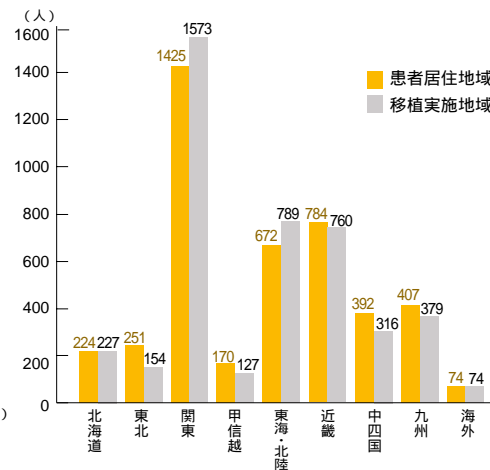
#### 年齢・男女



#### 疾患

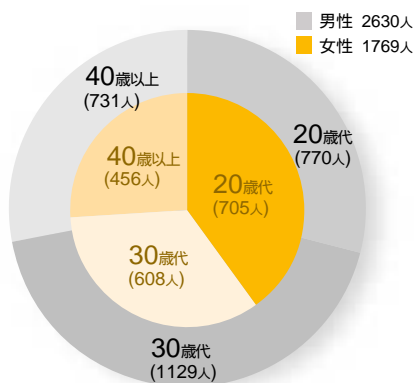


#### 住居地および実施施設所在地

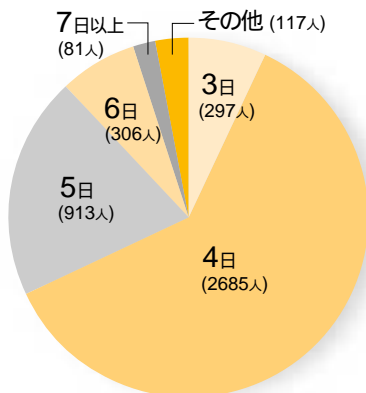


### 提供者の状況

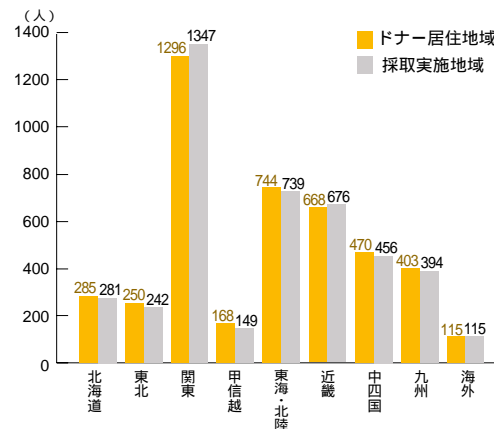
#### 年齢・男女



#### 入院日数



#### 住居地および採取実施施設所在地



## ご支援ありがとうございます



講演会会場。岡山シティホールで

去る10月24日岡山シティホールで「明日の美容と福祉を考える会」と題して講演会が開催され、パネリストに迎えられた歌手の刀根麻理子さんの「ドナー休暇制度導入を！」の呼びかけに、このほど岡山美容師組合が検討会を立ち上げました。

そもそもこの講演会は、組合からの依頼に廣瀬浩志さんが応える形で実現したもの。廣瀬さんは美容師歴25年、高齢者や障害のある人に出張美容サービスを始め10年になります。

「美容師はお客様と接することの多い職業。全国に30万人といわれる美容師を通して少しでも多くの人にバンクのことを知ってもらえる機会につながれば、岡山の美容師組合のドナー休暇制度導入が全国の美容師組合に制度が広がるきっかけになってほしい」。廣瀬さんはそう願っています。

## ドナー休暇制度 導入検討会立ち上げ 岡山美容師組合



左から佐藤さん、小田さん、岸良さん

## 財団にパソコン寄贈 日本ヒューレット・パカード

このほど日本ヒューレット・パカード株式会社から最新型ノートパソコン36台、サーバー用コンピュータ2台、カラープリンタ2台など、価格約800万円相当が当財団に寄贈されました。

同社には小田晋吾業務総括本部長が委員長の社会貢献委員会（事務局・岸良百子さん）があり、これまでも全社員の総意として発展途上国の医療援助活動を支援するなど、社会貢献活動を続けてきています。このたびの寄贈は同委員会の企画社内公募に営業部の佐藤慶直さんが

提案したことから実現しました。

佐藤さんは「病院で待たなくてすむにはIT化が必要」が入社動機。小田さんは6、7年前、骨髄移植を希望しながらドナーが見いだせなかった白血病の同僚を亡くしています。

「何かのお役に立てれば、これを機会にバンクについて社内PRをするなど、できることから支援していきたいですね」と小田さんは話した。

\*搭載ソフトはマイクロソフト・ジャパン株式会社に提供いただきました。

# Thanks

## 骨髄バンク支援ソング披露 国会議員バンド「ギインズ」

7月2日

骨髄バンク国会議員連盟（会長・野田聖子衆議院議員）所属の国会議員4人（林芳正氏、浜田靖一氏、小此木八郎氏、松山政司氏）で構成されたバンド、「GILNZ」のチャリティーコンサートが、7月2日（火）、銀座ガスホール（東京）で開催されました。1部のシ



左から小此木、松山、林、浜田議員

ンボジウムに続き2部では、骨髄バンク支援ソング、少しの勇氣Peace Together」が披露され、ゲストの岩崎裕美さん（元悪性リンパ腫患者）も加わりました。

コンサートは財団の後援で同連盟が「患者負担金支援募金」を立ち上げたこと、キックオフイベントでもあり、チケット、協賛チケット、CDの販売で得られた収益は、全て「患者負担金支援募金」に贈られました。

「議員としては、保険適用や財団の財政問題などに、バンドとしてはPR活動など、今後できるだけ支援します」

パンマスの林議員から熱いエールが届いています。

# ご支援ありがとうございます

## 「患者支援基金」発足

### 日本経団連が協力を表明

日本骨髄バンク（当財団）では、従来より政府はじめ関係機関に対し、骨髄移植に要する検査など諸経費の医療保険の適用を求めてまいりました。一方、骨髄移植による治療が必要にもかかわらず、経済的な理由により窮地に追い込まれている生活保護世帯や生活困窮世帯などの患者さんには、申請により骨髄バンクの利用料を減免しています。

これは、公的骨髄バンクとして、国民誰もが、安心して骨髄移植医療を受けていただくための最低限の措置として、当財団が独自に制度化し努力してきたものです。しかし、登録患者と移植件数の増加に伴い、財政難の骨髄バンクにとって、これらの費用の減免措置は限界に達しております。

そこで、骨髄バンクでは、通常の事業とは別に、医療保険の適用等が実現するまでの緊急措置として、こうした患者さんへの直接的支援にあたるための「患者支援基金」を設置することにいたしました。患者さんの生命に関わる極めて重要な人道事業として、現在、各界各方面にご協力、ご支援をお願いしています。

こうした中、わが国経済界を代表する日本経済団体連合会（会長・奥田 碩氏）が、本事業に深い理解を示され、この基金づくりを経済界募金として取り上げて、ご協力をしてくださるようになりました。今後、同会の支援のもと関係団体、企業の皆様にご協力をお願いいたしますが、何卒、ご理解、ご支援をお願いいたします。

### 応援します。共感と信頼をつくるために

日本経団連 会長

奥田 碩

21世紀を迎え、わが国は今、新たな発展の道を見出すことが求められており、物質面の豊かさに加え、精神面の豊かさもより必要になるものと思われま

す。そのためには、多くの人々が互いに助け合い、励ましあう「共感と信頼」の精神が国民の間に広く浸透することが大切です。

患者の皆様の一日も早い快復を念願し、骨髄バンクの患者支援基金の設立を応援します。



## Information

### 公共広告機構 CMキャンペーンがスタート



「みんな助かって欲しい」

公共広告機構の新しいキャンペーンが10月から開始されました。骨髄バンクを通じて移植を受けた患者さん同士の志賀夫妻が出演。なお、同CMはカンヌ国際広告賞への出展が決定しています。

### ドナーの健康状態確認のための基準を見直しました

骨髄バンクでは、骨髄提供に至る各プロセスにおいてドナーの健康状態を確認させていただくための基準を設けていますが、これまでの対応をもとに、内容を改定いたしました。

主な改定点は、既往歴について詳しくお聞かせいただくことになったこと、たとえば、椎間板の病気（椎間板ヘルニアなど）の既往があった場合は提供をご遠慮いただくことがあることなどです。また、ご勤務先での健康診断などで要精密検査などの項目がある場合はそれに対して問題がないことがはつき

りしてないと、コーディネートは進めることができません。

いうまでもなく、こうしたドナー適格性基準の改定はドナーの方の安全を第一に考えてのことですが、ひいては患者さんの安全を守ることにのみならず、コーディネートが開始された場合には、詳しく申告をいただきますよう、ご協力をお願いいたします。

### 平成15年度予算概算要求 骨髄バンクは、73.6%の大幅増額を要求

厚生労働省は8月末、来年度概算要求を財務省に提出。骨髄バンク関係の国庫補助金は、今年度の9億3700万円から38.3%増額の12億9600万円を要求しました。当財団への補助金は、本年度の予算から1億8923万円（73.6%）増額した4億4618万円となりました。あらたな項目に、専任「コーディネーター」設置費（3555万円）、コーディネート体制整備（9865万円）、普及広報の拡充（4500万円）、採血登録の前に事前の説明を受けた証明書作成費（1155万円）となつています。日本赤十字社への補助金は、ドナー登録者の増加を見込み、検査費用として前年度1億7008万円増の8億1900万円、地方自治体への補助金は、本年度よりやや減額した2822万円となりました。

予算案は12月末頃に正式決定されますが、要求額が減額とならないために、みなさまのご理解と後押しをお願いいたします。

# 募金ご協力のお願い

[http://www.jmdp.or.jp/help\\_us/](http://www.jmdp.or.jp/help_us/)

骨髄バンクは皆さまの善意に支えられています

骨髄バンクの運営には多額の資金が必要です。公的な補助金も受けていますが、十分ではありません。運営資金の多くは患者さんのバンク利用料と善意の方々の寄付金によって支えられています。ドナー登録者30万人の目標を実現して、一人でも多くの患者さんに移植の機会を提供するため、皆さんのご協力をお願いします。

## 1000人の患者さんが移植を待っています

移植を希望する患者さん1900人のうち、1000人の患者さんはドナー候補者が1人もみつかりません。すべての患者さんがチャンスを得るためには、目標のドナー登録者30万人を1日も早く達成しなければなりません。

## 昨年度1億円以上の資金が不足しました

コンピューターシステムの整備とコーディネート体制の充実などにより、毎年大幅に移植件数を伸ばしてきましたが、骨髄バンク事業は資金的に苦しい状況にあります。

## 年間広報費は約1億8000万円が必要です

ドナー登録を呼びかけるためのパンフレットやポスターの印刷、ドナー登録会開催などの広報費のうち、政府補助金は約3000万円にしかすぎません。一人でも多くの患者さんに、少しでも早く移植の機会を提供するために皆さまのご支援をお願いします。

たとえばこんなことができます

¥3,000 ■■■ パンフレット×120部  
¥10,000 ■■■ ポスター×150枚

オートレース  
Auto Race

日本小型自動車振興会からの補助について

本年度も普及啓発ポスター、パンフレット、リーフレットは「オートレース公益資金」の補助により発行しています。

## 皆様の善意をお寄せください。

### 1.郵便振替

本紙に折込みの振込用紙にて

最寄りの郵便局からお振り込みをお願いいたします。  
(送金手数料は当財団負担となります)。

### 2.銀行振込

フリーダイヤル 0120-377-465までお電話ください。  
みずほ銀行本支店間での振り込み手数料が無料になる専用振込用紙をお送りします。

### 3.クレジットカード募金

#### 1.お電話で

ご使用になるカードをお手元にご用意のうえ、フリーダイヤル0120-377-465まで、お名前・ご住所・電話番号・カード会社・カード番号・カードの有効期限・ご寄付の金額をお知らせください。

#### 2.インターネットから

[http://www.jmdp.or.jp/help\\_us/howto.html#internet](http://www.jmdp.or.jp/help_us/howto.html#internet)  
NTTコミュニケーションズの電子決済サービス「Livuy(リヴアイ)」を使用したインターネットの決済サービスです。お申し込みいただきました金額をご使用のクレジットカード会社の規約に従って、通常のカードご利用と同様にご指定の口座から振替させていただきます。

振替日は各カード会社によって異なりますので、カードご利用明細などでご確認ください。

お支払いは一回払いとさせていただきます。

#### 3.骨髄バンク提携クレジットカード

クレジットカードによるお支払額の0.5%が骨髄バンクに寄付される骨髄バンクサポーターカードは、毎年入会された日に指定された10000円または3000円が自動的に寄付される仕組みもついています。カードの種類は、一般会員(寄付金なし)・サポーター会員(寄付金3000円)・特別会員(寄付金10000円)があります。フリーダイヤル0120-377-465まで、入会申込書をご請求ください。



お問い合わせ・資料請求は  
日本骨髄バンク

フリーダイヤル

0120-445-445

<http://www.jmdp.or.jp/>